

2025 年度事業報告

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

公益目的事業

視能障害防止および眼保健衛生の普及・啓発を図ることによって国民の健康維持向上に寄与することを目的とした健診・調査・広報・出版・災害時支援事業と、視能に関する学問・技術の発展と優れた人材育成を図ることによって臨床現場で質の高い医療を提供することを目的とした学会・講習研修・教育事業

【1】国民への眼保健衛生の普及・向上に関する事業

1. 健診に関する調査・支援事業(以下、健診事業)

- (1) 新生児から成人に至るまでの視覚に関する情報を日本視能訓練士協会ホームページ(以下、ホームページ)に掲載した。
- (2) 視覚感受性期にある乳幼児を対象とした「目の健康チェックシート」ならびに3歳児健康診査視覚検査の重要性を啓発するポスターをホームページに引き続き掲載(ダウンロード可能)し、乳幼児期に発見し治療すべき疾患への注意を促した。
- (3) 3歳児健康診査眼科検査での眼科検査方法を解説した「3歳児健康診査における視覚検査マニュアル(第2版)」をホームページに引き続き掲載し(ダウンロード可能)、3歳児健康診査眼科検査の検査技術及び精度の地域格差を改善した。
- (4) 3歳児健康診査眼科検査における家庭での視力検査方法を解説した動画をホームページに引き続き掲載した。これにより3歳児健康診査眼科検査での異常検出精度を向上させた。
- (5) 成人以降に発症する眼疾患への注意を促すための成人版「目の健康チェックシート」として「あなたの目、本当に大丈夫ですか？」をホームページに引き続き掲載(ダウンロード可能)した。成人健診における眼疾患の早期発見・早期治療のために「目の健康チェックシート(成人版)」を各市区町村保健センターへ配布し、早期に発見すべき緑内障等の眼疾患予防への注意を促すための啓発活動を行った。
- (6) 第9回3歳児健康診査(視覚検査)従事者向け研修会を開催した。
2026年2月24日(火)～2026年3月29日(日)オンデマンドにて開催した。
- (7) 超高齢化社会における中途視覚障害者の増加に伴い、質の高いロービジョンケアを提供するため、視能訓練士のロービジョンケアの知識技術を向上させた。
- (8) 国立障害者リハビリテーションセンターで開催される「視能訓練士ロービジョン研修会」に協力した。
- (9) 小中学生を対象にした文部科学省主催の児童生徒の全国近視実態調査研究事業の結果を活かし、社会全体で児童生徒の視力低下を防ぐための啓発活動を行った。
- (10) 国民の健康寿命の延伸のため地域包括ケアシステムへの参加を念頭に、実践事例の情報収集や実態調査を行い、視能訓練士が実施できる高齢者の視能管理への可能性を検討した。
- (11) 日本眼科啓発会議を中心とするアイフレイル対策活動事業に協力し、国民の目の健康寿命を延伸するための啓発活動を行った。

2. 広報事業

- (1) ホームページ等を通じて社会へ眼保健衛生の啓発と推進を行った。
- (2) ホームページに倫理規程を公示し、視能訓練士の職業倫理の高揚と業務への責任を喚起する活動を行った。
- (3) 6月第一月曜日の「視能訓練士の日」に関連する事業として、動画を作成し配信した。
- (4) 協会ポスターとリーフレット、動画を会員や関連諸団体へ配布、案内して「視能訓練士」の名称および職務を国民に向けて広報した。
- (5) 全国で開催される「目の愛護デー」関連事業へ参加協力し、眼保健衛生の普及・向上に努めた。
- (6) 東京都眼科医会が主催するTokyo Eye Festival、東京ロービジョンサポートフェアに参加し、視機能に関するトピックスを来場者に紹介することを通じて、視能訓練士がQuality of

visual life の向上に果たす役割を広くアピールした。

2025 年 10 月 4 日（土）5 日（日）：会場 新宿駅西口イベント広場

- (7) 東京都看護協会がナイチンゲール生誕記念事業として主催する「看護フェスタ」へ参加し、来場者へ眼疾患の予防と目の健康を啓発するリーフレットの配布および視能訓練士を紹介し、眼保健衛生の普及・向上に努め、視能訓練士の職務を広報した。

2025 年 5 月 17 日（土）：会場 東京都看護協会会館

- (8) 小学生・中学生・高校生を対象に、視能訓練士の職務内容を積極的に紹介し、リーフレットや動画などの広報媒体を活用することで、視能訓練士を目指す小中高生の関心を高めた。
- (9) 視能学を学び、視能訓練士を目指す学生に対して JACO メイト制度を活用し、在学中から臨床で必要とされる知識を養い、本協会の事業を紹介し協会活動への興味や理解を促した。
- (10) 養成校に理事を派遣して協会事業の理解を促した。
- (11) ホームページの拡充を行った。
- (12) 知名度向上・組織率向上のためのプロジェクトを継続し、イベントの開催や会員支援活動を行った。

3. 調査事業

- (1) 視能矯正・訓練普及の実態調査を行った。
- (2) 視機能の病態および視能矯正の実態調査を行った。
- (3) 5 年毎に行う視能訓練士に関するアンケート調査および実態調査報告書の発行に向けた準備を行った。2026 年 2 月に実態調査報告書を発行した。
- (4) 新規免許取得者の就業状況調査を行い、就業傾向を把握した。
- (5) 日本視能訓練士協会定款施行規則を検討し、必要に応じて改定した。
- (6) 視能訓練士雇用状況調査、雇用推進に向け準備を行った。
- (7) 日本視能訓練士協会の知名度向上調査会議を行った。
- (8) 厚生労働科学研究費補助金(厚労科研) 障害者政策総合研究事業の「障害者自立支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデルの普及促進に資する研究」に研究協力団体として参画した。

4. 渉外事業

- (1) 国内関係諸団体との相互の協力について交流を密にした。
 - 1) 監督官庁(内閣府)及び関係官庁(厚生労働省・文部科学省)へ、協会の現況について連絡交流を図った。
 - 2) 研究諸団体(日本眼科医会・日本眼科学会・日本弱視斜視学会・日本眼光学学会・日本小児眼科学会・日本ロービジョン学会・日本視野画像学会等)と学術・技能向上の提携交流を図った。
 - 3) 国際医療技術財団・医療技術者団体協議会・東京都医療従事者ネットワーク連絡会等に参加し、医療技術者団体間の交流を図り、医療技術者の相互理解を深めた。
 - 4) 国民医療推進協議会へ参加し、参加団体と協力して国民皆保険制度を守る活動を行った。
 - 5) チーム医療推進協議会へ参加し、医療技術者団体間の連携を深め、医療技術者の社会的地位向上と超高齢化社会に適応したチーム医療の推進に向けた活動を行った。
- (2) 国外の視能矯正学分野・視能訓練士に関係する団体と交流し、知識・技術の提携を行った。
 - 1) 国際視能矯正協会と連携し、国際協力・貢献事業を行った。
国際視能矯正協会(IOA)理事会出席 (2025 年 6 月 24～26 日 オーストラリア ブリスベン)
国際視能矯正協会(IOA)総会出席 (2026 年 1 月 31 日 オンライン開催)
 - 2) 国際学会発表支援プログラムを実施し、会員の国際学会での学術発表を支援した。
 - 3) 日本の視能訓練士の特色を活かした国際協力の方策、アフターコロナ時代に適応した国際交流・支援を検討した。
- (3) 国内の視機能に関係する団体および学会への後援を通し協力することで知識・技術の向上を図った。
 - 1) 第 14 回日本視野画像学会学術集会(埼玉)
 - 第 26 回日本ロービジョン学会学術総会(広島)
 - 第 40 回日本白内障屈折手術学会(JSCRS)学術総会(福岡)
 - 第 7 回日本近視学会総会(大阪)
 - 第 95 回九州眼科学会(福岡)を後援した。

2) 光学と眼鏡に関する研修会を後援し、次年度の開催準備に協力した。

2025 年 第 8 回・第 9 回眼光学チュートリアルセミナー

(4) 地域ブロック会議を開催した。

1) 地域との連携を強化した。

2) 災害等緊急時における安否確認などの連絡網を強化し、必要に応じて早急に対処した。

3) 各地域ブロック間の情報交換が密にできるように準備した。

(5) 日本視能訓練士協会の戦略企画会議を行った。

5. 出版事業

(1) 日本視能訓練士協会誌(学術論文集、第 55 巻)を雑誌として発刊し、電子ジャーナル(J-STAGE)を公開した。

(2) 日本視能訓練士協会会報(第 145 号、第 146 号)を 2025 年 10 月と 2026 年 3 月に発行した。

6. 災害時支援事業

(1) 東日本大震災を契機に発足した眼科医療活動「日本眼科災害対策会議」へ参加協力し、今後起こりうる災害を想定し、被災者を対象とした眼科検診を検査面から支援した。

(2) 「視覚障害者の災害に備えた連絡会議(仮)」へ参加協力し、今後起こりうる災害時に視覚障害者への支援活動に対し関連団体が連携し、より効率的な支援の検討を行った。

(3) 首都圏で大規模災害が発生した時にも公益目的事業を遂行できるような事務局環境整備を行い、かつ会員の安否状況や被害状況を把握し迅速に対応できるよう災害対策マニュアルの策定を行った。

【2】国民に良質で安全な医療技術を提供するための視能訓練士教育事業

1. 学会事業

(1) 日本視能矯正学会を開催し、次年度以降の学会開催準備を行った。

1) 第 66 回(2025 年)学会開催準備

会期：2025 年 10 月 25 日(土)～26 日(日)

学会長：岡真由美(川崎医療福祉大)

名誉学会長：三木淳司(川崎医科大)

2) 第 67 回(2026 年)学会開催準備

会期：2026 年 10 月 24 日(土)～25 日(日)

学会長：中川真紀(帝京大学病院)

名誉学会長：井上裕治(帝京大)

(2) 日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第 79 回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム開催

会期：2025 年 10 月 9 日(木)～12 日(日)

会場：大阪府立国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

テーマ：視能訓練士(CO)が知っておくべき、複視を伴う斜視の診断と治療

オーガナイザー：林孝雄(帝京大)、大北陽一(兵庫医大)

2) 第 80 回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム開催準備

会期：2026 年 10 月 29 日(木)～11 月 1 日(日)

会場：国立京都国際会館、ザ・プリンス 京都宝ヶ池

テーマ：未定

(3) 第 79 回日本臨床眼科学会インストラクションコースに「視能訓練」をテーマとしたプログラムを企画し、開催準備を行った。

2. 講習研修事業

(1) 講演会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第 40 回講演会開催準備 2025 年 6 月 2 日(月)～6 月 30 日(月)：オンデマンド開催

講演内容：「症例から学ぼう！網膜疾患の治療と診断における最新情報」

演者：近藤峰生(三重大学眼科)

2) 第 41 回講演会開催準備 2026 年 6 月 15 日(月)～7 月 12 日(月)：オンデマンド開催

(2) 研修会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第 23 回研修会開催準備 2025 年 6 月 2 日(月)～6 月 30 日(月)：オンデマンド開催

研修内容：「小児の眼鏡処方」

2) 第24回研修会開催準備 2026年6月15日(月)～7月12日(月)：オンデマンド開催

3. 教育事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度の各教育プログラムを実施した。

1) 新人教育プログラム

講義日程

2025年9月17日(水)～10月22日(水)

オンデマンド開催

技術日程 ※ブロック単位開催

北海道ブロック

8月31日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

開催なし

10月5日(日) 視野検査

開催なし

11月16日(日) 視力・屈折検査

開催なし

東北ブロック

9月14日(日) 視力・屈折検査

東北文化学園大学

9月15日(月祝) 視野検査

東北文化学園大学

10月5日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

東北文化学園大学

関東甲信越ブロック

10月19日(日) 視野検査

帝京大学

11月30日(日) 視力・屈折検査

帝京大学

2026年1月25日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学

東京ブロック

10月19日(日) 視力・屈折検査

帝京大学

11月30日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学

2026年1月25日(日) 視野検査

帝京大学

東海・北陸ブロック

11月23日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

名古屋医専

11月24日(月祝) 視野検査

名古屋医専

11月30日(日) 視力・屈折検査

名古屋医専

近畿ブロック

6月29日(日) 視野検査

大阪人間科学大学

7月6日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

兵庫医科大学

8月3日(日) 視力・屈折検査

医学研究所北野病院

中四国ブロック

7月6日(日) 視力・屈折検査

川崎医療福祉大学

11月30日(日) 視野検査

川崎医療福祉大学

2026年2月15日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

川崎医療福祉大学

九州ブロック

9月14日(日) 視力・屈折検査

福岡国際医療福祉大学

9月15日(月祝) 視野検査

福岡国際医療福祉大学

10月5日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

熊本大学病院臨床医学研究棟

2) 基礎教育プログラム

基礎教育プログラムⅠ

2025年8月6日(水)～9月10日(水)

オンデマンド開催

基礎教育プログラムⅢ

2025年11月8日(土) 視能矯正

機械振興会館(東京)

11月9日(日) 視能障害

機械振興会館(東京)

2026年2月7日(土) 視能矯正

CIVI 研修センター新大阪東(大阪)

2月8日(日) 視能障害

CIVI 研修センター新大阪東(大阪)

3) 専門教育プログラム

専門教育プログラムⅠ

2025年9月14日(日)～15日(月祝)

オンライン開催

専門教育プログラムⅡ(視能検査学)

- | | |
|-------------------------------|----------|
| 2025 年 7 月 19 日(土)～21 日(月祝) | オンライン開催 |
| 専門教育プログラムⅡ(視能障害学) | |
| 2025 年 9 月 13 日(土)～15 日(月祝) | オンライン開催 |
| 専門教育プログラムⅢ | |
| 2025 年 6 月 18 日(水)～7 月 9 日(水) | オンデマンド開催 |
- (2) 視能訓練士臨地実習指導者講習会を主催した。 (後援：全国視能訓練士学校協会)
- | | | |
|-------|--------------------------------|---------------|
| I 期 | 2025 年 6 月 23 日(月)～7 月 20 日(日) | 講義 オンデマンド配信 |
| | 2025 年 7 月 27 日(日) | グループワーク ライブ配信 |
| II 期 | 2025 年 8 月 25 日(月)～9 月 21 日(日) | 講義 オンデマンド配信 |
| | 2025 年 9 月 28 日(日) | グループワーク ライブ配信 |
| III 期 | 2026 年 1 月 19 日(月)～2 月 15 日(日) | 講義 オンデマンド配信 |
| | 2026 年 2 月 23 日(月祝) | グループワーク ライブ配信 |
- (3) 施設見学研修を開催した。
- (4) 国民に眼保健衛生に関する最新の情報を提供するため、ホームページやメール等を活用し、会員に最新医療情報の提供を行った(例：視覚障害認定基準の改定など)。
- (5) 「眼科コメディカルビデオシリーズ」の DVD を希望者に貸し出し、技術研修に役立てた。
- (6) リカレント教育を行った。
- (7) 臨地実習指導ガイドライン作成の準備を行った。

その他の事業(相互扶助等事業)

視能訓練士の資質向上を目的とした自己研鑽を奨励し、学術技能を評価して認定および表彰する事業

1. 認定視能訓練士に関する事業

- (1) 視能訓練士生涯教育制度基礎教育プログラムを修了し、所定の条件を満たす者を「認定視能訓練士」と認定し、以後 5 年ごとに認定更新を行った。
- (2) 専任教員認定制度の認定条件を満たす者を「認定専任教員」と認定し、以後 5 年ごとの認定更新を行った。
- (3) 眼鏡レンズに関する研修を開催した。

2. 学術奨励賞に関する事業

- (1) 2025 年度に発行予定の日本視能訓練士協会誌第 55 巻に投稿された学術論文の対象論文から第 17 回学術奨励賞を選考したが、該当者なしだった。

3. 生涯教育に関する事業

- (1) 第 66 回日本視能矯正学会にて第 8 回認定視能訓練士セミナーを行った。
- (2) オンデマンド講座を追加公開した。
- (3) 視能訓練士学育成コースを行った。
- (4) 視能障害学育成コースを行った。
- (5) 生涯教育制度の見直しを行った。

4. 公益社団法人に関する事業

- (1) 当該公益法人の運営体制の充実をはかるための取組として、公益法人制度の理解を深めるための研修会を開催した。

「附記」

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な項目」が存在しないので作成しない。

以上